

ファレノプシス（コチョウラン）の交配を紹介します。

都市園芸科2年生の植物バイオテクノロジーの授業で5月に行う予定でした、ファレノプシスの交配を紹介します。交配は授業で行えませんでした。交配したさやを5～6か月後に採取し、未熟種子の無菌播種で行う予定です。

〈都市園芸科2年の生徒へ〉 ファレノプシスの花の構造と、交配方法を確認しましょう。

ファレノプシスは、花の形が蝶に似ていることからコチョウランともよばれる。花の構造はラン科植物特有の六弁花で、外側の3枚をがく片、内側の3枚を花弁とよび、そのうちの中心にある1枚は花弁が変化したもので唇弁とよばれる。

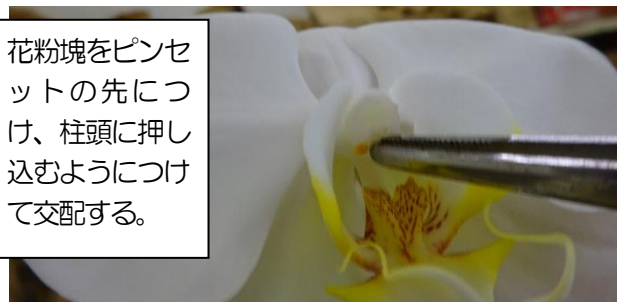


農業高校で栽培している品種です。花弁や唇弁の色が違います。

雌ずいと雄ずいは融合して1つになる（ずい柱とよばれる）。花粉は、やく帽の内側に数個の花粉塊になっている。



やく帽を取り除くと、花粉塊が出てくる。



花粉塊をピンセットの先につけ、柱頭に押し込むようにつけて交配する。



〈交配10日後〉
交配が成功して花弁がしおれている。



柱頭は、くぼんで粘着力があるので花粉塊がつきやすい。

〈交配48日後〉
さやが肥大している。さやの中に種子が入っている。

